

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ナーサリールーム ベリーベ アー鷺沼Annex	種別：認可保育所
代表者氏名：與五澤 節子	定員（利用人数）： 60名 （利用人数：59名）
所在地： 〒216-0002 神奈川県川崎市宮前区東有馬2-35-38	
TEL：044-863-6007	ホームページ： https://ness-corporo.co.jp/nursery/saginuma_annex/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ネス・コーポレーション	
職員数	常勤職員：15名 非常勤職員：5名
専門職員	園長：1名 保育士：13名
	保育補助：2名 看護師：1名
	調理師：2名 用務：1名
施設・設備の概要	保育室：6室 トイレ：2カ所
	調理室・厨房：1カ所 事務室：1室
	シャワー室：2カ所 職員ロッカー室：1室
	倉庫：2室 園庭：有

③ 理念・基本方針

○保育理念

- ・子どもの生命の保持と人格の尊重を第一に考え、一人ひとりの個性と可能性を大切に、ふんだんな愛情を持って健全な心身を育てる。
- ・子どもの安全面について細心の注意を払い、安全性を重視した環境づくりを行う。
- ・保護者や地域との連携を密にし、理解と協力を得ながら、的確なニーズの把握に努め、子どもと保護者にとってより良い保育を目指す。

○保育方針

子どもの思いをあたたく受け止め、心の安定と信頼関係を深めながらていねいに
関わり、健やかな心身と豊かな人間、社会性をもった子どもを育てる。
十分に養護のゆきとどいた、安心してのびのびと遊べるあたやかな環境の中で、
子どもが主体的に取り組めるように援助しながら将来をたくましく生き抜くバランスの
取れた心と体づくりをする。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・子ども達が主体的に活動できるように子ども達の中に生まれるコミュニケーションや話し合いを「子ども会議」と呼び自分の気持ちを表現することを大切にしています。職員は子ども達の指導をするのではなく、気持ちに寄り添い「子ども会議」が活発に行われる場を作っています。子ども達が主体となり様々な行事が行われています。
- ・子どもが様々な経験ができるように多様なカリキュラムを実施しています。体操、

茶道など講師を招き興味の幅を広げていくようにしています。絵本の貸し出しも週1回行い保護者と共に絵本の世界を楽しめるようにしています。絵本の蔵書も多数で興味や想像を広げていくことができます。

・人材育成の取り組みとして専任の講師を招き入れ継続的にルーキーサポート（新人研修）施設長研修、主任研修を行っている。社内研修は様々な方面の学びができるように年間を通して日程や内容を決め講師を招き行っている。また、宮前区や神奈川の外部研修にも積極的に参加しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月1日（契約日）～ 令和6年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)子どもの主体性を大切にされた保育を展開しています

運動会、夏祭り、発表会などのテーマは、5歳児が「子ども会議」を開き、意見を出し合い、一つにまとめあげて決めています。決まったテーマは、下のクラスに伝え、それぞれの発達年齢により、子どもたち中心に目標に向けて進めています。園は子どもの主体性を育む保育に力を入れており、日常的生活習慣から大きなイベントまで子どもたちで考え行動し、達成感が味わえる過程を大切にしています。保育士は、年齢ごとの子どもたちの特性・個性をしっかり把握し、子どもたちが主体的・自主的に行動できる「環境設定」に創意工夫を重ねています。指導計画には、活動のねらい、環境設定とそれに伴う職員間の連携、家庭との連携を記載し、振り返りとして子どもの姿、評価・反省など、行動目標や行動経過を一つずつ確認し、次の活動に向けて職員間で共有しています。園は、子どもの主体性を育むために職員の自己啓発・自己研鑽を推奨し、職員自身が保育現場で「振り返り・見直し・確認」の連続性をもって取り組む保育を行っています。

2)たくさんの掲示物で子どもたちの理解を促しています

保育室内外にたくさんの掲示物があります。「この食べ方してもいいのかな？」では、絵とクイズで食べ方のマナーを伝えています。給食後の流れは「おきがえ」「こっと」「えほん」…と文字を添えて絵で示しています。主食を食べたがらない子どものために「ごはんのできるまで」を作り、写真とクイズで楽しく説明しています。可視化することや、子どもの興味を引くよう工夫した掲示物を一定期間掲示しておくことで、子どもたちにメッセージを効果的に伝えています。

3)保護者に寄り添った支援を行っています

園では、日々の連絡帳やアプリ配信で言語的なコミュニケーションを密にしていますが、送迎時にも対面でのコミュニケーションを図り、相互の信頼関係を大切にされた保育を行っています。保護者の子育てに対する「不安」や「心配」に全面的に寄り添い、常に一緒に考え、共に子の成長を見守る支援を基本としています。悩みや相談は、いつでも柔軟に対応し、相談内容に応じて保育士・看護師・栄養士・主任・園長による丁寧な相談支援を行っており、保護者から高く評価されています。

4)マニュアルの充実化

「BB・Book（Berry Bear Book＝法人クレド）」に記載された項目をもとに一般的なマニュアルを作成していますが、園独自のきめ細かい実践については、まだマニ

マニュアル化されていません。法人の方針を理解し、同じ意識を持ちながら保育実践が行えるため、各マニュアルの内容を充実化させ、さらに必要に応じて職員間で意見交換を行いながら見直し・追記していくことが期待されます。

5 地域交流や地域貢献の意義

地域交流や地域貢献の取組が積極的ではありません。子どもにとって地域住民との交流体験は、園以外で体験する心身の成長のよい機会になります。また、取組内容により、園の専門性を生かした地域貢献にもつながります。今後は、地域の保育所としての理解を深め、子育ての拠点施設となることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

職員全員で運営や保育の取り組みを振り返りながら、課題改善点を話し合う機会となりました。改善が必要な所は、どうすればよいかを具体的に話し合ったり、たくさんの意見交換ができてよかったです。職員の質の向上と保護者や地域との連携をとり、理解と協力を得ながら的確な保育ニーズの把握に努め、子どもと保護者にとってより良い保育を目指していきたいです。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり